

めいろうこども園 外部評価委員会報告

- ・日時 : 令和5年8月17日(木)
午前10時～11時45分
- ・場所 : シオンヴィレッジ内 ハハトコノハコ

- ・評価委員
吉本 季丸 市福祉事務所子育て支援係
沖田 浩聡 父母の会 令和4年度会長
鮫島 寛大 学園評議員 元父母の会会長
久保 真奈美 学園評議員 元父母の会副会長
- ・こども園職員
園長 和俊
主幹保育教諭 雅代
主幹保育教諭 朋果



○保育参観 各学年別の保育

○協議内容

- ・保護者による園評価(令和4年度分)分析
- ・保護者による自由意見(令和4年度分)分析
- ・職員による自己評価(令和4年度分)分析
- ・今後の課題及び運営に関する意見交換

○園評価を踏まえた考察

- ・鮫島: お年玉募金に関する再依頼について
「困っている人を助けるというキリスト教の考え方で実施されているが、お知らせの文章で、大切にしたい考え方が伝わっていないのはとても残念である。募集期間を延ばすのではなく、途中で締切までの期日をアナウンスしてみてもどうか。」
- ・久保: お迎え前のビデオ視聴に関して
「テレビを視聴して待つことは、スムーズに冷静に引き渡せる手段だと感じる。保育者がビデオ視聴に頼って放置しているイメージがあるのかも知れない。降園前の過ごし方を、入園のしおり等で丁寧に伝えることで理解が深まるのではないか。」
- ・吉本: 北側市道での離合問題について
「裏門から北側に抜ける道もあるので、入出ルートはなるべく一方通行をお願いしてみてもどうか。」
- ・発達支援に関する園の取り組みについて
園では年に2回、巡回相談として理学療法士、保健師、歯科衛生士など専門の方々に子どもたちの現況を見てもらい、気になる園児への関わり方、援助の仕方などのアドバイスを受けて、保育や支援の見直し等に取り組んでいる。保護者との相互理解も重要であるが、まずは子どもの困り感をしっかり捉え、専門機関(医療や福祉、教育委員会等)と連携を深めたい。

○自己評価を踏まえた考察

- ・教師間の連携を高めるための「報告・連絡・相談」の推進
- ・ICT機器の活用による業務効率化の推進

○今後の課題

- ・鮫島: 人材確保について
「ICTの導入は、業務改善としてはとても有効である。現代は人と人が関わる仕事は敬遠されがちなので、職種による業務分業が必要ではないか。」
- ・吉本: 乳幼児の人口減について
「西之表市では、基本的な待機児は無く、出生数はここ数年で急激に減ってきている。」

☆認定こども園は、保護者や子どもたちにとって、もっとも身近な存在であり、安心して教育・保育を委ねられる存在とならなければならない。本園はそういう場を目指していることを一層地域に伝えていくことが必要だと改めて思うことであった。今回の外部評価委員会では、保護者の方への丁寧な情報伝達の必要性を学ぶことができた。委員の方の率直な意見や提案に心から感謝である。

